

東淀川区西部地域バリアフリーまちづくり協議会（第 62 回部会）会議要旨

日 時：令和 8 年 7 月 9 日（木）午後 7 時～午後 8 時 20 分
場 所：東淀川区役所出張所 3 階会議室

【議事】

- 1 開会
- 2 部会長あいさつ
- 3 議題
(1) 地域での活動報告及び意見交換
(2) その他
- 4 閉会

《配付資料》

- ・ 議事次第
- ・ 第 61 回「まちづくり通信」
- ・ 【資料 1】地域での活動報告関連資料

1 開会

2 部会長あいさつ

（部会長）

- ・ 本日は、地域の取り組みをご報告いただく。切磋琢磨していきたい。

3 議題

（1）地域での活動報告及び意見交換

【新庄地域 報告】

- ・ 新庄の地域保健福祉計画は、当初策定から 7 年目となり古くなってきたため見直しを進める。
- ・ 見直しの一例として、前回は「FM コミュニティ」を提案したが、現在は LINE など SNS による情報発信が効果的なこともあり、そのような点を見直す。
- ・ 8 月 4 日に第 1 回を開催、8 月中に 2 回目を実施しまとめていきたい。

（意見交換）

- ・ 豊新はもともと地域保健福祉計画の先行地域で、3 年前に改訂した。コロナ禍の新たな取り組みや子ども食堂の開始なども反映し、よい見直しができた。
- ・ 区の保健福祉計画の改訂に合わせて豊新地域も再度改訂しようと思う。

【淡路地域 報告】

- ・ 地域のアクションプランをまとめる入口として「まちの変化マップ」を作成した。淡路地域周辺の変化をマップに落とし込むと地域の変化が見えやすくなる。地域が「変化の途中にある」ことを実感し、今後のアクションプランの議論に活かせればと思う。将来的には東淀川区版ができれば面白いと思う。

【啓発地域 報告】

- ・ 未来会議は昨年の 10 月からスタートし、今回で 4 回目になる。未来像や過去の良かったこと、現状の検討、それらを総括して、予算や場所の制約を考慮し 5 つのアプローチ案を作った。
- ・ 1 つ目は高校生から実現したいと意見があったお泊まり企画、2 つ目はスタンプラリー、3 つ目はキャンドルナイトなど夜のイベント、4 つ目は「水遊び&ボール遊び」開放デー、5 つ目は New 盆踊りである。

最終的に決まったのは、1つ目の企画である。お泊まりになるかわからないがイベントをやってみたい。

- ・今回、高校生4人が参加してくれており、彼らを10年20年後の担い手に育てたいと思い、彼らの意見を尊重しながら、大人がサポートして進めている。
- ・また8月8日に啓発地域で開催予定の「子ども縁日」に、高校生も企画立案に参加しながら進めるなど、高校生の動機付けを重視して進めていきたい。まずは高校生主体の企画を実施し、お泊りイベントは1年がかりで進めていきたい。

【東淡路・柴島地域 報告】

- ・8月下旬から9月初旬にかけて第1回ワークショップを予定。
- ・3回くらいのワークショップでまとめて、淡路駅の計画の話、柴島浄水場の開発の話など、地域の人が聞きたいことを前段で説明するなど、参加者を集める工夫も検討中。
- ・できるだけ幅広い世代に参加してほしい。地域の小学校で未来のまちを考えることをしてきたので、保護者の方にも地域の動きを伝えている。今後は参加者を集めることに力を注いで、よいワークショップにしたい。

（意見交換）

- ・東淡路・柴島地域での、小学校で未来のまちを考える取り組みについて、学校側への話のタイミングやルートを可能な範囲で教えてほしい。
 - ⇒・学校側へ話をしたのは昨年の10月か11月頃、教科書から「未来を考える」内容がなくなっていたためお願いした。柴島浄水場跡地の話もあり、子どもたちが大人になった頃にまちが完成すると思うと、どうしてもやりたいという思いがあり、学校に相談するとすぐやりましようとなった。
- ・啓発地域は、高校生も参加しやすいか。
 - ⇒・高校生のやりたいことは、避難訓練や8月8日のイベント、11月か12月の敬老の日に合わせたイベントの開催など地域で既に行われているものである。従来の硬いイメージではなく、新しい風やアイデアが欲しいということで高校生を呼び込んだ。彼らは、お祭りやイベントをもっと面白くしたいと考えており、高校生が楽しめる企画を一つでもやってみようとしている。
- ・西淡路地域のまちづくりのアクションプランもかなり前のものなので、ブラッシュアップのためにPTAの参加も考えている。子ども部会を作ることも議論中で、学校も参加しやすくなると考えている。
- ・子どもを中心に据えた仕掛けはとてもよい。新庄地域や豊新地域でも大学と連携している。地域住民、行政、民間企業が協力し、そこに子どもたちの顔が見える活動をめざしたい。
- ・大学と連携して、大学生とコラボしたイベントはあるか。
 - ⇒・豊新地域では、数年前からフリースクールを運営している。学校に行けない子どもたちの居場所として、ボランティア部の大学生が見守り役をしている。しかし、大学生は地域に住んでいないことや入れ替わりがあるため、メンバーが揃わず施設を開けられないこともある。人員不足で困っている。
 - ・大阪経済大学や大阪成蹊大学のゼミの学生が地域活動に関わってくれている。遠方からの学生は就職すると来られなくなり、関係の継続が難しいのが悩みである。
 - ・新庄地域は、大阪成蹊大学のアルティメット部とつながりがあり、縁をつなげておきたい。

- ・関西大学北陽高校の部活の先生と繋がりががあるので、地域でいっしょに何か活動ができないかと思っている。学校と繋がりを持てれば、持続性が期待できる。
- ・下新庄地域も大阪成蹊大学のゼミ生9人が、子育てサロンやカレー屋さん、ミニキャンプ、サマーフェスティバル、敬老会などを手伝いながら、卒論の材料にも活用してもらっている。
- ・小学生も年齢に近い大学生が来てくれると話しかけやすく、すぐに仲良くなる。これからも続けてもらえるとありがたい。
- ・ミニキャンプでは、中学生までのボランティアも参加しているので、高校生になっても来てくれるように、うまく繋いでいきたい。
- ・下新庄駅前において地域活動の広告を見せることは、地域が何に取り組んでいるか分かってもらえるので、早く掲出したい。
- ・今年は、盆踊りが、8月1日、2日に下新庄公園で開催されるが、時間の取り方が難しい。子どもばかりが中心になると、ベテランの方々の不満が出てくる。子どもの時間と大人の時間に分けて、昔ながらの盆踊りを行い、融合を図っているが難しい。
- ・私たちが行っている行事のほとんどは、子どもが中心。将来、下新庄で住み続けてもらうためにも、中学校、高校で活躍してくれる未来の卵なので、大事にしたい。私たちも高齢者になっていくが、同じ年代の人たちを離さないように、そして、子どもたちともうまくやっていくのが大事。

(久名誉教授)

- ・啓発地域において、高校生に企画を任せるのは大賛成である。
- ・八尾市でも、山本小学校区のまちづくり協議会が立ち上がったときに、当時の地域の会長が、各団体の全ての活動について棚卸しをすることにした。地域がやらされていた活動を全部やめ、楽しいことだけを残すことにした。
- ・行事において、企画するときに知恵を出すと、企画力を持った地域の人たちが増える。企画力が向上して人が繋がれば、地域力がアップすることになる。そうすると、何かあった場合に、どんな分野でも、どんな活動でもできる地域になるのではないかと。そういう考えで、楽しい行事を中心に回していくことに切り替えた。
- ・啓発地域においては、高校生の企画力のアップが図れる。高校生は3年経ったら大学生になり、代々繋がっていきける。
- ・私が館長をしている茨木市の「おにクル」でも、高校生との取り組みを増やしている。周年事業として、昨年からは市内の高校の軽音楽部に声をかけて、1,200人収容の大ホールを使った合同音楽祭の企画を軽音楽部に全部任せた。司会進行も、プログラム作りも、全部高校生が行った。
- ・企画会議では、大きなリスクを抱えたり、大きな失敗に繋がらない限りは、大人は口出しをせず、大目に見るスタンスである。
- ・今年も3周年の事業で、音楽祭を行うことになり、高校生が企画している。高校生たちは、任せたら力を発揮するし、失敗したら反省会を行い、自分たちで考えることになり、任せ切るのは大賛成である。
- ・おにクルの芝生広場でも、花火をやりたいという話になったので、高校生に声をかけて、自分たちが花火を行い、その経験をもとにルールを作り、去年からは花火もOKにした。窓口に声をかけて、腕章とバケツを受け取り、最後はバケツの水で火を消して、片付けして帰るという最低限のルールを作った。

- ・東淡路・柴島地域では、はぐくみネットが、学校と地域を繋いでおり、その強みを活かしている。はぐくみネットのコーディネーターが元気なところは、地域が元気になり、学校と地域がうまくやっている。はぐくみネットのコーディネーターと、一緒にやれば、はぐくみネット側も助かる。さらに、はぐくみネットのコーディネーターは、大半が、PTAのOBである。PTAのときはやらされ感があったかもしれないが、はぐくみネットでは、自分が主体的に回せる立場になるので、一緒にやっていると学校との連絡もとやすい。
- ・最後に、高校生をその気にさせる1つの方法として、大学の総合型選抜入試がある。地域活動や市民活動の経験をプレゼンで発表して選抜する仕組みで、全国で動いている。総合型選抜入試のネタができるという話で、勧めてもらうとよい。一般入試では難しい1ランク、2ランク上の大学も狙えるようになっている。私も選抜する側だったが、3年間ずっとやってきた、地域の方々と一緒にやってきた、自分が企画して動かした、となれば合格に近づくと思う。そのようなお得感を出しながら、呼びかけていくと、高校生も乗ってきやすい。
- ・啓発地域で、高校生を見つけたルートは、とても重要である。お母さんが地域活動に入っていると、自分の子どもも入れようという話になる。母親と女子生徒の関係で巻き込んでいけば、友達に繋がり、いもづる式に繋がっていく可能性がある。
- ・私の大学にも総合型選抜入試の入学者がいる。地域活動を行っている母親の背中を見て、本人も中学生のときから地域で活動をしている。父親、母親が地域で動いていると、子どもはその背中を見て育ち、機会を提供すると地域活動に入ってくる可能性は、とても大きいと期待をしている。

(2) その他

- ・啓発地域の地域活動に参加している高校生の内訳はどうか。
 - ⇒・女子が3人、男子が1人で、学年は2年生。女子3人は、地元の小中学校で一緒だった。
- ・継続の話でいくと、同じことをすることが継続と思いがちだが、毎年異なるプログラムでよい。「去年はこうだったけれども、今年はまた自分たちで考えて・・・」という形での継続の方がうまくいく。
- ・啓発地域の打合せのとき、女子生徒が「私たちだけで話させてもらってもいいの？」って言うことがあり、「一歩進んだな」と思った。
- ・盆ダンスでは、ミルクの「好きすぎて滅を」流して踊る。あとは、ヨアソビの「夜にかける」、ダンシングヒーロー、マツケンサンバ・・・
- ・どうやって踊るのか。
 - ⇒・一応、振り付けがある。YouTubeに出ているので、子どもたちは、あっという間に覚える。
- ・その盆踊り、盆ダンスは、誰が教えるのか。
 - ⇒・得意な女性がおり、その人が全部企画する。今年は「滅！」がしたいと言え、応えてくれる。
- ・コロナ前は踊る人が少なかったが、コロナ明けは祭りに飢えていた人たちが大勢来た。最近、輪が3周くらいになり、半分以上が子どもたち。コロナ前は盆踊りをやめようかと思っていたが今は全然違う。

4 閉会

以上